

めぐみイエス・キリスト教会

2017年12月31日(日)2017年感謝礼拝
週報「通算第387号」



2017年標題聖句

ピリピへの手紙2章13節～16節

神は、み心のままに、あなた方のうちに働いて、
志を立てさせ、ことを行なわせてくださるのです。

すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行ないなさい。

それは、あなた方が、非難されるところのない純真な者となり、
また、曲がった邪悪な世代の中にあって傷のない神の子供となり、
命の言葉をしっかり握って、彼らの間で世の光として輝くためです。

主日礼拝毎週日曜日 午前10時～11時

聖書研究・祈禱会 毎週水曜日 午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2017年12月31日(2017年感謝礼拝)

午前10時～11時

司会 鈴木 ますみ さん 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏・祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌266「罪咎を赦され」 p. 418

【交読文】 No.38 詩篇第121篇 p. 910

【賛美Ⅱ】 新聖歌172「望みも消え行くまでに」p. 248

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週のメッセージの概要】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.2 「あなたと共にいつまでも」

【聖書朗読】 詩篇146篇1節～10節 (旧約p. 966上段左側)

【祈 禱】

【メッセージ】 《私の魂よ。主を誉め讃えよ》 鈴木竜実師

【聖 餐 式】

【平和の祈り】

【賛美Ⅳ】 新聖歌198「God Bless You」 p. 294

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝禱・後奏】

●ポイント1 この詩篇の意味することとは？

※詩篇103篇1節～6節 「ダビデによる」 (旧約p.925上段)

103:1 わがたましいよ。主をほめたたえよ。私のうちにあるすべてのものよ。聖なる御名をほめたたえよ。

103:2 わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。

103:3 主は、あなたのすべての咎を赦し、あなたのすべての病をいやし、

103:4 あなたのいのちを穴から贖い、あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、

103:5 あなたの一生を良いもので満たされる。あなたの若さは、わしのようになり、新しくなる。

103:6 主はすべてしいたげられている人々のために、正義とさばきを行なわれる。

●ポイント2 私たちは誰を頼り、また誰を信頼すべきなのか？

※イザヤ書2章22節「イザヤによる先見の言葉から」(旧約p.1036下段)

2:22 鼻で息をする人間をたよりにするな。そんな者に、何の値うちがあるろうか。

※ヨハネの福音書14章13節～14節「イエス様の言葉」(新約p.192上段)

14:13 「また私は、あなたがたが私の名によって求めることは何でも、それをしましょう。父が子によって栄光をお受けになるためです。

14:14 あなたがたが、私の名によって何かを私に求めるなら、私はそれをしましょう。」

●ポイント3 求めたものを得る為に、私たちのすべきことは何か？

※ピリピ人への手紙4章4節～7節「使徒パウロの勧め」(新約p.355上段)

4:4 いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。

4:5 あなたがたの寛容な心を、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。

4:6 何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。

4:7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

◎先週のメッセージの概要【喜びの訪れ】

《クリスマス・イブとは、クリスマス・イブニングの略語で、古語のevenから来ているとも言われています。ユダヤ暦では、午後6時から新しい一日が始まりますから、イエス様が生まれたのは25日の夜、すなわちローマ暦では、24日の夜になるわけです。それゆえ、クリスマス・イブが盛大に祝われるわけです。

本来クリスマスとは、キリストをミサするという意味であり、東方の三博士が生まれて数日経った、幼子イエス様を礼拝しに来た事から発生しています。彼らは、伝承ではバビロニアに住む王たちであったとも言われています。

さて、救い主誕生の最初の知らせは、御使いガブリエルによって、ダビデの町ベツレヘム郊外に野営していた羊飼いたちに、もたらせたのです。

彼らはユダヤ人ですが、ユダヤ社会から追放された人々で、多くの場合、罪人やならず者たちが羊飼いの仕事をしていたとも言われています。

このように、まず神様は虐げられている人々、粗末に、邪険に扱われている人々に、「喜びの訪れ」の知らせを伝えられたのです。

さて神様の不思議な導きによって、羊飼いたちは洞窟の家畜小屋に辿り着き、みどり子イエス様を礼拝します。彼らは何か贈り物を持って行ったのでしょうか。聖書には書かれてはいませんが、もしかしたら、暖かい羊毛で作った膝掛けのようなものをプレゼントしたのかも知れません。

しかし一番のプレゼントは、御使いによって伝えられた「喜びの訪れ」のメッセージではなかったのではないのでしょうか。それこそがヨセフとマリヤが聞くべきことであつたからです。それゆえマリヤはこれらのことをすべて心に納め、それからずっと後にまで、思いを巡らすことになるのです。

『恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。』メリークリスマス！』

◎お知らせ

1. 次回1月7日(日)の礼拝は、通常通りです。第三週1月21日(日)の礼拝は、鈴木師が聖書キリスト教会の午後集會に参加しなければならない為、午前中もしくは、1月20日(土)の午後6時の時間帯に移動したいと考えています。
2. 次回祈禱会は、1月10日(水)に行ないます。1月3日(水)はお休みします。
3. 1月9日(火)下妻朝禱會にて、鈴木師はメッセージです。お祈り下さい。